

刻む会 たより

No.57

2015. 6. 26

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・内岡貞雄・木村道江

事務局

宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内) TEL 0836(21)8003

カンパ振込先

ゆうちょ銀行 口座番号 01590732405

名義 長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

年会費

正会員3,000円 賛助会員1,000円

ホームページ

<http://www.chouseitankou.com>

メール

chouseitankou@me.com

去る3月12日、「刻む会」顧問であり、初代会長の山口武信さんがお亡くなりになりました。
第2回定期総会終了後、山口武信さんを偲ぶ会を開催しました。
偲ぶ会には約27名の参加があり、演劇や句会の方々からのメッセージ披露や想い出フォトビデオ上映もあり、参加者一同で在りし日の山口さんを偲びました。

山口さんとの思い出

「偲ぶ会」での発言より

私と山口先生とは、1991年3月18日に「水非常を歴史に刻む会」を発足させてからの約20年あまりの付き合いとなります。



顧問 島徹史さん

私たちは「刻む会」の初代会長に山口先生を選びました。それから15年前の1976年12月宇部市地方史研究第5号に先生の書かれた論文「炭鉱における非常昭和17年長生炭鉱災害に関するノート」これが、初めてそれまでは何も知らなかった私たちに長生炭鉱の事を教えてくれた。それゆえに、初代会長として山口先生を選んだということです。
ご承知の通り、「刻む会」の前身は1980年代初めに発足した「指紋押捺拒否者を支援する会」がスタートです。これはその当時3人のコリアンの若者が宇部市に対して指紋押捺を拒否していた。そのうちの一人が在日大韓基督教会の裴基秀(ペ・キス)長老(「刻む会」初代通訳者)の息子さん。そういうこともあって、澄田さん(「刻む会」初代事務局長で宇部教会牧師)、陣内さん(発足当時の緑橋教会牧師)達と一緒にこの会を立ち上げました。以後、月1回世話人会の会合をしていました。記録を見ると、1990年5月に1回でなくて2回の会合を持っていました。詳しいことは覚えていませんが、この翌年、「指紋押捺の

会」は閉会をして「刻む会」が発足するので、そのあたりの事を話し合っていたのだと思います。1990年に在日外国人に指紋押捺を今後は強制しないという法律が成立したことで、私たちは「指紋の会」を閉じて次に何を行うかを模索したのであります。結果として、山口先生の書かれた文章を見て、長生炭鉱のことを知り、そこに大勢の韓国の方がいまだにそこに眠っているということを知って、私たちは、次はこの問題を取り上げて市民としてやっていこうと決意を新たにしました。「指紋の会」最後の世話人会は1991年2月18日でした。山口先生は「指紋の会」の会員ではありませんでした。しかし、記録を見ますと、1990年10月29日、「長生炭鉱殉難者之碑」を建てた人々との話し合いとい



2000年無窮花堂落成式

裴基秀さん(左)と山口武信さん(右)

うのを西岐波の公民館で行っています。そこに、その後発足する「刻む会」側では山口先生、井上さん、布引さん、私とこちら側は4人で、向こうは5、6人出てきていたんではないかと思いますが、話し合いをしました。これはどういうことかと申しますと、海の底に未だ沈んでいる人たちの追悼式と一緒にしようと打診をしたんですね。しかし、結果としてこれは断られました。結果、1991年2月3日に、「長生炭鉱殉難者之碑」を建てた人たちだけが法要を行いました。そして、私たちは一緒に出来ないのならと「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」というのを立ち上げたわけであります。

初期のころ、最初の集まりは1991年4月15日、福祉会館で、市民に呼びかけて会をしました。27名の方が集まり、「刻む」会がスタートしたわけであります。そのあと、世話人会、例会などが毎月行われています。初期の活動を簡単に申し上げますと、活動として一番最初に取り上げたことは、ピーヤの保存を訴える署名活動でした。1991年10月までに2687名の賛同署名が集まり、県とか市に持って行って交渉をしたわけです。

2番目に行ったことは、こういった運動を市民にできるだけ理解してもらうために、1991年6月、林えいだいさん（109名参加）、1992年5月額厚さん（80名参加）をお招きして、講演会を行いました。

3番目の働きは1991年10月27日、韓国の遺族に手紙を書いたことです。殉職産業人

名簿というのが手に入り、名簿の中に、長生炭鉱で亡くなられた方々の名前、遺族の名前が表になって載っています。そういったものを入手したので、韓国の遺族の方に初めて手紙を書き、現状をお知らせし、お詫びをしたわけです。これに対し、一番最初に応答があったのは、1991年12月9日、京都に住んでおられて、お父さんが長生炭鉱で亡くなられた李元宰（イ・ウォンジェ）さんという方が、一人で飛んでこられました。そして、長生炭鉱のピーヤの見える海岸に山口先生と一緒にして、思いをいろいろお聞きしました。その翌年、1992年2月、50周年の追悼集会を正式に行いました。この時には、京都から李元宰さんがやってくる、宇部に呉周烈（オ・デユル）さんという、やはり長生炭鉱で働いた方、このお二人が参列されて、最初の追悼集会を行いました。その時の話し合いで、遺族の方を招こうという話が出て、最初に遺族を

イウォンジェ
左・李元宰さん、右・山口武信さん



1996年4月韓国にて

招いたのが1992年8月18日。韓国から、金永鉉（キム・ヨンヒュン）さん、金東岩（キム・トンアム）さん二人の遺族がやってこられました。それと京都からの李元

宰さんを交えて、追悼と話し合いのつどいを持った次第です。

2回目は、1993年1月31日、これが韓国遺族を招いての初めての追悼集会です。金永鉉さんが会長になっておられました。金永

鉉さんを含む11名の方が韓国より来られました。そして、初めて西光寺にある位牌と対面したのです。そして、1994年1月29日、3回目の追悼集会、金永鉉さん会長他8名を韓国よりお招きし、追悼式は120名が集まって開催しました。1995年8月、最初のフィールドワークを開催し、それ以来、毎年、1、2月には韓国から遺族を招いて追悼集会、夏、最近では春、フィールドワーク、そういったことをやり、世話人会、事務局会を毎月開いて、その時その時の活動を続けてきたわけです。山口先生の名前があまり出てきていませんが、これらの全ての事の上に、会長としてお立ちになって、ご指導くださったわけです。

これから後、少しだけ私の手帳から拾った山口先生とのお付き合いで、印象深いことをいくつか申し上げて話を終わろうと思います。月一回の事務局会、フィールドワーク、勉強会をずっと一緒にやってきました。1月末か2月始め、遺族を招いての追悼集会をやってきたのも、今までお話しした通りで



追悼式で挨拶をする山口さん

す。その毎年、下関港まで山口先生、私、その他何人かの方が、韓国の遺族を送り迎えして、下関の港へ参りました。遺族を迎え、県庁・市役所を訪問し、追悼会をやったわけですね。遺族を迎える下準備、山口先生と県庁や市役所、民団、総連、日韓親善協会、様々なところを訪ねて、下準備を行ったことを今でも懐かしく思い出します。

2001年10月22日、一番最初に宇部に来た、お父さんを亡くされた京都在住の李元宰さん、10年間「長生の会」を本当に親しく支えて下さり、毎年来てくださった、この方が、お亡くなりになりました。山口先生と二人、李さんのお宅を訪ね、李元宰さんにお線香をあげたことを本当に懐かしく思い出します。

李元宰さんのことは、私事になりますが、私の娘が韓国の青年と結婚するという話を一杯飲みながら話をしたら、猛反対されました。「韓国の若者と結婚させちゃいかん！」

と。しかし、「私はもう決めたことだから」というと、「そこまであなたが言うんなら、あなたが言うんなら、分かった、俺は全面的に協力する」と、そのあと、韓国での披露宴とか一緒に出席して下さって、私

2000年追悼集会后の懇親会にて



の娘の旦那の家が大邸にあつて、そこに行く時も一緒に行ってくださって、通訳をしてくださいました。非常に個人的にお世話になりました。

2001年12月1日、5日、大邸へ韓国遺族会総会に山口先生と一緒に、これは井上さんとも一緒に行きました。帰りに釜山で、今の金会長のご実家のお店で河豚をごちそうになって一杯飲ませていただいたのを懐かしく思い出します。



山口武信さんと金亨洵遺族会会長

2001年8月15日、ご記憶にあるかもしれませんが、NHKが深夜に、平和の世紀に送り続けたいという深夜の番組に、インタビュー番組を計画し、その中の一つに山口のNHKが真ん中に立って、15日の深夜、山口先生と対談を下さって、長生の問題を日本中にNHKから放送されたという事実がございます。これは大変良いインタビューで、この後、私の出身の仙台をはじめ、ものすごくたくさんの方の手紙が全国から舞い込んで、長生の事を覚えた、聞いたという反応をいただきました。

2003年2月4日、市役所記者クラブとの話し合いをしたことも懐かしく思い出します。

同じく6月16日、長府の〇〇さん：こういう個人のお宅も二人で訪問して協力をお願いしたりしました。こういったこともいくつか行いました。

2005年4月21、23日、韓国より真相究明調査団が来日した時も、二人で一緒にしたことを思い出します。

2006年10月18、21日、これは生存者二人が少し前に判明して現れたのですが、そのうちの金景鳳(キム・ギョング)さんが宇部にやってこられました。この時には山口先生と二人で福岡空港まで迎えに行つて、山口だとかいろいろなところを翌日ご案内して、一緒に時を過ごしたことを懐かしく思い出します。

2008年4月15、16日、今度は2回目の韓国遺族会で釜山へ行きました。金(キム)会長をはじめ、楊玄(ヤン・ヒョン)副会長、孫(ソン)事務局長の3役が揃って出てくれて、遺族も20名ばかり集まった、会合に山口先生と一緒に参加できたのが懐かしい思い出です。

2013年2月2日、ご承知のように、追悼碑が完成して、その除幕式が行われ、追悼集会が行われました。



山口武信さんと孫鳳秀事務局長

た。2014年5月24日「刻む会」の最初の総会が行われ、再スタート、新しい出発を始めたわけですが、これら全てを先生と一緒にさせていたでいて、全で一応終わったところで、2015年3月12日、ひと区切りついたところで、僕はお亡くなりになって、僕は本当に良かったと思っています。今までいろいろ一緒にさせていたでいたことを心から感謝して、皆様とご冥福をお祈りしたいと思います。

(文責 山内弘恵)



山口武信さん、20年以上に渡って「刻む会」を支えて下さり、本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈りします。



除幕式後、追悼碑を見つめる山口武信さん

第2回(2015年度)定期総会報告

書記 山内弘恵

去る、2014年5月30日(土)、宇部緑橋教会にて第2回定期総会が開催されました。正会員数73名のところ、実出席19名、委任状29名、計出席48名、陪席者5名で規約第17条に従い、運営委員会より左記の議案が提案され、審議が執り行われ全て異議なく可決ならびに承認されました。

※なお、後日、総会議事録を作成し、議事録署名人に確認していただきます。

☆議案

議案第1号 議長並びに書記選任に関する件

議長 島敬史 書記 山内弘恵

議案第2号 議事日程承認に関する件

議案第3号 議事録署名人選任に関する件

井上善兼 島家治彦

議案第4号 2014年度活動報告承認に関する件

内岡貞雄共同代表より議案書に添って2014年度活動報告がなされた

※総括についてはP2に掲載。

活動日誌は随時「刻む会たより」に掲載していますので省略します。

議案第5号 2014年度決算報告ならびに会計監

査報告承認に関する件

小畑事務局長より議案書に添って2014年度決算報告がなされた

※会計報告については「刻む会たより」で随時掲載していますので、省略します。

議案第6号 顧問選任に関する件

島敬史

議案第7号 会計監査委員選任に関する件

真鍋みどり 宮本輝男

議案第8号 2015年度活動計画(案)承認に関する件

議案書に添って2015年度活動計画(案)について、井上洋子共同代表より報告がなされた。

※P2に掲載

議案第9号 2015年度収支予算(案)承認に関する件

議案書に添って2014年度収支予算(案)について、小畑太作事務局長より報告がなされた。

※予算計画については本誌面での掲載は紙面の都合上、省略させていただきます。

議案第10号 議長ならびに書記解任に関する件

☆質疑応答

Q1…遺骨収集の予算について、支出の予算計画はあるのか？

A1…具体的には予算が定められない。たとえば、厚生労働省との交渉などで派遣する場合の旅費やDNA検体保存のための活動など、どの程度実施できるかを今の段階で計画することは難しい。

Q2…市民団体の規模から考えると財産が大きくなってきているが、法人格取得などの方向を考えた方が良いと思うが、検討はされているのか？
A2…法人としての運営は、現状の体制ではかなり難しい。追悼碑建立の時にも検討したが、土地の所有について緑橋教会が所有することを覚書として確認することで、現状の体制を維持することとした。財産規模については、たとえばかつて検討した遺骨等収集事業を行う場合は億単位の費用が必要なので、現状が特別おおいということではない。

2014年度活動総括

(1) はじめに

昨年の総会以後、「刻む会」は活動内容の検討・実施・反省を定例の運営委員会に付し、協議を行なってきました。以下、項目ごとに評価と展望について述べます。

(2) 73周年追悼集会と追悼ひろば

今年の追悼集会は韓国遺族8名(含通訳者)を招聘しました。当初の予定では在日遺族2名を含み10名の遺族の招聘を考えていましたが、本年は在日遺族の参加がなく前述の人数になりました。今後「遺骨等の収集」に多額の費用を充てなくてはならないため、遺族招聘は10名程度(含通訳者)にしたいと考えています。午後の第二部では、NPO法人戦没者追悼と平和の会理事長の塩川正隆さんに、遺骨収集と遺族のDNA採取等に関する講演をしていただき、その内容は「刻む会」と遺族会にとって参考になる点が多くありました。



追悼ひろばの拡充は、壁面の植栽交換工事をはじめ、今年1月に壁ブロックを設置しました(横8.4メートル・縦1.6メートル)。その場所に山口武信顧問の長生海岸絵画(1994年製作)を展示し、その下には1997年のピーヤ潜水調査の折に引き揚げられた二本の木片を設置しました。今後、追悼ひろばの説明および本名への訂正一覧版を設置し、子ども達の

絵画の展示を進める計画です。前者はすでに原案を検討中ですが、後者については「子ども達の学習あるいは地域との連携を図る」という目的がありますので、さらに運営委員会で検討を重ね具体化を進めていかななくてはなりません。

なお追悼ひろばの追悼碑等は、ピーヤの見える坑口付近に移動して、「長生炭鉱殉難者之碑」(1982年建立)とともに歴史の事実を物語るものにしたという願いを、私たちは持っています。



(3) ピーヤの保存等

「ピーヤ(排水・排気筒)の保存」は、「刻む会」発足からの目的の一つです。一昨年の船上視察の折、沖のピーヤの側面がかなりひび割れていることがわかりました。また、岸のピーヤから突き出ていた排水管は、2000年頃に荒波で取れてしまいました。保存のための方策が急がれます。

宇部市当局は2013年7月、「刻む会」の長年の要求にこたえる形で「ピーヤの説明板」(長生炭鉱と石炭産業)を作りましたが、残念ながらその内容は歴史の事実我真摯に向き合うものではありません。特に、説明板の最後の文言を認めることはできません。それは次の部分です。「私たちは先人たちの命をかけた炭鉱への思いを未来へと継承していかなければなりません。」

(4) 学習会・研究会およびフィールドワークの開催

2013年2月の追悼碑除幕式以降、県内外からのフィールドワーク(FW)の申し込みが増えました。これは、FWの記事が『部落解放新聞』に取りあげられたこと、地元の人権・同和教育関係者のご協力、環境問題で活躍される詩人のアーサー・ビナード氏が「水非常」を雑誌に掲載してくださったこと、『朝鮮新報』や韓国の新聞記事の掲載等々によるものと思われまふ。今後、年4回発行の『刻む会たより』による情報発信とともに新聞・テレビ等を活用して、人権の大切さや歴史の事実を伝えていかななくてはなりません。

また、「証言・資料集【3】『アボジは海の底』の作成についても検討を進めます。

今年3月、「強制動員真相究明ネットワーク」と共催で、第8回強制動員真相究明全国研究集会が宇部市文化会館で開催され、約100名の参加がありました。「刻む会」は、地元報告を行ない、長生炭鉱のかかえる諸問題を参加者に伝えました。宇部市当局との問題解決のための協議は25回を数えるが目に見える成果は得られていないこと、そして「殉難者之碑」建立委員会と対比しながら「刻む会」の歩みを説明いたしました。さらに遺骨・遺品等の収集と返還の



取り組みにも言及しました。各事項における課題は次年度に持ち越しとなります。翌日のFWMには約50人の参加がありました。韓国遺族会の全錫虎（チョン・ソッコ）さんに貴重な証言をしていただき、FWがより充実したものとなりました。



(5) 遺骨・遺品等の収集と返還について

「刻む会」の活動の重要な目的の一つは、西岐波海岸の海底下に放置されたままの遺骨等の収集・返還です。長生炭鉱水没事故は、事故当時の安全管理の杜撰さを考えると、起こるべくして起こった人災と言わざるを得ません。また事故後、管轄官庁の九州保安石炭局による事故調査は充分に行なわれたとはいえません。裁判記録はまだ入手できていませんが、事故当時、会長職にあった方が「あの事故は法律違反をしていたことで起こってしまった」と山口地裁で述べています。（『宇部地方史研究』第15・16号 1987年 67頁）

「刻む会」は、遺骨等の収集・返還を「人権問題・人道上の問題」として取り組んで参ります。そのために宇部市や山口県の協力を取り付け、政府（厚生労働省）の担当者に働きかける方策を検討中です。同時に、韓国遺族会を通じて韓国政府の協力を取り付けることも検討しています。要は、あらゆるチャンネルを使い、日韓政府への働きかけを行なわなくてはなりません。

ん。そのために、全国の諸団体や研究者、遺骨発掘・収集を実践されている方々との連携や協力を密にする必要があります。

(6) その他

「刻む会」の目的は、「1942年2月3日、長生炭鉱で起こった水非常（水没事故）を歴史から消すことなく、誠実に向き合うことを通し、朝鮮半島の人々並びに在日コリアンとの友好と親善を育み、平和を作り出すこと」です。（規約第2章の第3条）「刻む会」は、この目的を達成するための活動を運営委員会の検討を経て行ないました。その一つに、在日外国人、とりわけ在日コリアンに対するヘイトスピーチ（差別的煽動表現）問題があります。「人間の尊厳」を貶めてやまないヘイトスピーチをなくすためには一日も早い法的措置が急がれます。

「刻む会」は、昨年11月「ニッコリしようパレードin下関」に参加し、反ヘイトスピーチのアピールを行ないました。次に、山口朝鮮初中級学校への補助金カット問題があります。「刻む会」は、この問題を山口県や宇部市の行政による「教育の差別」と捉えています。これは、「教育の平等」（憲法第26条）に抵触するだけでなく、国連「子ども権利条約」や昨年8月に出された国連人種差別撤廃委員会の勧告にも違反しており、「刻む



会」として看過できない問題と考えました。私たちは、宇部市教育委員会や宇部市議会へ請願要求を行うとともに、朝鮮学校関係者が山口県学事文書課との間で行った話し合いの場にも参加し、補助金の復活を訴えました。

(7) 終わりに

私たちは、『長生炭鉱水非常』という悲惨な出来事を生んだ侵略戦争や植民地支配を反省し、再び他民族を踏みつけにするような暴虐な権力の出現を許さない」という「刻む会」発足当初の言葉を決して忘れてはならないと思います。



「刻む会」では新規会員を随時募集中です！

☆ 「正会員」と「賛助会員」の二種助があります。

正会員 会費：個人 3,000 円／年
団体 5,000 円／年

※総会議員となり、総会（5月）での議決権を有します。

賛助会員 会費：個人 1,000 円／年
団体 2,000 円／年

ご希望の方は、①会費を添えて直接事務局へ持参下さるか、②郵便振込用紙にて入会希望の旨を記載し、会費を振り込んでください。

※なお、会計年度は4月1日～翌年3月31日です。
その他、カンパも随時受け付けています。

2015年度活動計画

〈目的〉

1942年2月3日、長生炭鉱で起こった水非常（水没事故）を歴史から消すことなく、誠実に向き合うことを通し、朝鮮半島の人々並びに在日コリアンとの友好と親善を育み、平和を作り出すことを目的とする。

〈活動計画〉

1. 遺骨・遺品等の収集と返還
- (1) ピーヤからのアクセスや坑口の後の調査など、収集実施に向けた諸調査を行う。
- (2) 現存する遺族のDNAを収集し保管する。
- (3) 国・県・市の各行政に取り組みを促す。
2. 追悼式・追悼集会の開催
- 74周年追悼集会を開催する。
3. 学習会・研究会およびフィールドワークの開催
- (1) 「1」の活動を進めるための学習・研究を行う。
- (2) 従来通り、長生炭鉱のことを通して歴史と平和を学ぶための学習会やフィールドワークを開催、また受け入れを行う。
4. 追悼碑の拡充
- (1) 子どもたちの学習のため、また地域との連携を図るため、追悼ひろばに、子どもたちの絵画の設置を進める。
- (2) 新たに設置した壁面に、「追悼ひろば」説明文や諸資料を掲示・展示する。
5. ピーヤの保存
- 行政との交渉を進める。
6. 証言・資料（史料）の収集と編集
- 第三集の発行に向けて準備をする。
7. (仮称)『山口武信追悼文集』を編集・発行する。
8. その他、目的を達成するために必要な活動
- (1) 上記の活動を進めるために、地元自治体である宇部市の協力を得るための粘り強い交渉を継続する。
- (2) 『刻む会だより』を年4回発行するとともに、通信先リストを管理し発送先を検討し経費の削減に努める。
- (3) 各種イベントなどへの協力・出展を通し、情宣ならびに募金活動を充実させる。特に遺族招聘のため、また、4・(1)のための募金活動を行う。
- (4) その他、運営委員会の検討を経て、目的を達成するために必要な活動を行う。

長生炭鉱 第4回 春のフィールドワーク

「地元の方々」と楽しい交流会でした
—「チゲ鍋」チューエゴ！（最高！）—

【はじめに】

今年の春のフィールドワーク（FW）は例年より一カ月遅い4月25日（土）に行なわれました。開会の挨拶の後、「追悼ひろば」の追悼文を朗読しました。それから新江頭橋（1987年竣工）まで参加者全員（13人）で歩きました。橋手前の空き地で、2本のピーヤを眺めながらの説明となりました。

【説明内容】

① 10年前に完成した海岸道路の工事で、長生炭鉱の本坑口は完全に土砂の中に埋められました。（工事は地主の反対で10年以上も遅れました）

② 1942年頃の古い地図には、長生炭鉱本坑口付近から海へ延びる石炭積出栈橋と、すぐ近くの江頭川東岸付近から、長生炭鉱二坑（旧新浦炭鉱）の石炭積出栈橋が海へ延びていました。（二坑の坑内は換気が悪く、劣悪な環境でした）

③ 2本のピーヤ間の距離は195メートル、この間はほぼ水平坑道である。ポンプ室は沖のピーヤから約50メートル沖にありました。この場所で150馬力のポンプが年中稼働していました。故障でポンプが止まれば坑内に湧水が溜まり、作業員の胸あたりまで浸かりました。

④ 長生炭鉱本坑口から斜坑（100メートル）の斜坑は傾きが15度でした。水没事故当日、

斜坑下までたどり着いたのに息絶えた犠牲者もいたといえます。坑口を強引に坑木で塞ごうとした時、坑夫たちの助けを求める声が聞こえなかったのでしょうか。

【質問】

① Q ピーヤとはどんな意味ですか？

A ピーヤは排気・排水筒の意味で海底坑道から汚れた空気を排気したり、坑道に溜まった水を排水する役割をしました。② Q 事故を起こした会社は、今はどうなっていますか？

A 会社は1974年10月1日に広島法務局に解散届を出しています。しかし会社の道義的な責任がなくなっただけではありません。

水没事故の犠牲者に思い 長生炭鉱フィールドワーク



事故当時の模様の説明を受ける参加者（長生炭鉱追悼広場で）

海に沈んだ長生炭鉱・春のフィールドワークはこのほど、宇部市末波1丁目の長生炭鉱追悼広場などで開かれ、参加した10人が海底炭鉱で起きた水没事故について認識を深めた。長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会主催。市教委、宇部日報社後援。

1942年2月3日、

長生炭鉱の海底坑道に水が流入して183人が死亡した。このうち13丁目の長生炭鉱追悼広場に「刻む会」が発足し、92年から犠牲者の大多数を占めた韓国側遺族を招いて追悼集会を開いている。フィールドワークは歴史の事実と触れ、将来に受け継ぐこと、3年前から実施している。

刻む会の内閣府共同代表が当時の事故の模様や同会が発足した経緯を紹介し「海底炭鉱は海水と地下水が流入する運命にあり1日、腰の辺りまで水が漬かるが、これをポンプアップして作業していた。しかし事故の2カ月前に通常の浸水とは規模が違っ流入があったが、応急処置で対応したため悲惨な事故につながったと推察されている」と説明。刻む会では炭鉱のピーヤ（排気口）の保存などに加え、遺骨収集も視野に活動が続けていることを確認した。

引き続き近くにある本坑口などの炭鉱の遺構を視察して回った。最後に韓国の伝統料理のチゲ鍋を食しながら当時の思いを話した。（浅野）

③Q 海の底に放置されたままの遺骨・遺品収集にはどのくらいの費用がかかるのでしょうか？

A 詳細はわかりませんが、数億円という莫大な費用が予想されます。したがって、政府(厚労省)による支援が不可欠です。同時に韓国政府から日本政府への働きかけも大切になります。たくさんの方の質問が出てよかったです。滋賀県からの参加者もいました。

(文責 共同代表 内岡貞雄)

【青空チゲ鍋大会大盛況】

地元可愛される「追悼ひろば」を目指して、日頃フィールドワークなどでご迷惑をかけている地元の方々に礼をこめて、チゲ鍋を囲みながら交流会を開催した。

お天気にも恵まれ、期待以上にたくさんの方々に来ていただいた。余るかと思われた大量のチゲ鍋は冷たいビールの喉越しに次々と参加者の胃袋に消えていき、おいしいから作り方を教えてと言われた。前日から準備して頂いた下関のオモ二の皆さんに感謝でいっぱいだ。

90才を超えた地元の長老は、事故当時中学2年生で、新聞配達途中に「海に吹き上げる大きな波しぶきが3か所あった」と、高台から見た事故の様子を鮮明に覚えていた。

息子さんが韓国に仕事で赴任しているという方も韓国への親しみをもって参加してくれた。

近所のおばさんに誘われて今日初めて追悼ひろばに訪れたというお母さんと娘さんもいて、娘さんは「遺族の追悼文」を読んで、亡くなったお父さんへの思いがずっと入ってきで感動したと話した。事故当時の話や韓国の遺族会と刻む会のつながりについて、「死者(犠牲者)への手紙」を出したこと、初めてアボジの死を知った遺族も含め、交流が始まったこと等を話した。山口県は「花燃ゆ」より長生炭鉱の事をドラマにしてもっと宣伝した方がいいとまで言ってくれた。

ひろばの近くのご夫婦は、いつも私たちを温かく見守ってくれていて、この日もご夫婦そろって参加してくれ、本当にありがたかった。

地元の参加者はこの度の企画を歓迎してくれ、今度は地元の祭りなどにも参加してもらって交流を深めたらどうか、と積極的な意見もいただけた。「よし、次は焼き肉だ」と、気合ももらった楽しい会だった。

目の前に広がる海の底に犠牲者が眠ったままに、地元の方々は海を見るたびに心痛めているに違いないと思う。



だからこそ、地元の皆様のご協力もお願いしながら、遺骨収集を一日も早く実現したいと思う。

(文責 共同代表 井上洋子)

活動日誌

(前回たより以降)

※太字：詳細は記事にて紹介

2015年

▽3月13日(金) 「刻む会たより」発送作業

▽3月21~22日(土、日) 第8回強制動員真相究明全国集会(1日目・集会、2日目・フィールドワーク)

▽4月6日(月) 第11回運営委員会

「山口県の朝鮮学校の歴史を学ぶ」
許鳳兆さん講演会

▽4月8日(水)

山口朝鮮初中級学校補助金カット抗議の県庁前座り込み及び申し入れ行動参加

▽4月25日(土) 春のフィールドワーク

▽5月15日(金) 会計監査

▽5月8日(木) 第12回運営委員会

▽5月13日(水)

山口朝鮮初中級学校補助金カット抗議の県庁前座り込み及び申し入れ行動参加

▽5月30日(土) 第2回定期総会

山口武信さんを偲ぶ会

▽5月31日(日)

第9回「NPO法人国際交流広場無窮花堂友好親善の会」総会出席

▽6月10日(水)

山口朝鮮初中級学校補助金カット抗議の県庁前座り込み及び申し入れ行動参加
▽6月12日(木) 第1回運営委員会

第8回強制動員真相究明全国研究集会

「強制連行問題をどう終わらせるか」

強制動員真相究明ネットワーク

竹内康人

●第8回強制動員真相究明全国研究集会

2015年3月21日、

山口県宇部市で第8回強制動員真相究明全国研究集会「強制連行問題をどう終わらせるか」が開催された。集会は「強制動員真相究明ネットワーク」と「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の共催でもたれ、全国から100人ほどが参加した。

集会でははじめに、「刻

む会」の小畑太作さんが、当時の長生炭鉱での強制連行、強制労働、安全管理規則違反、被害未補償、賃金未払い、事故後の不作為などの問題を示し、1991年に長生炭鉱の「水非常を歴史に刻む会」の結成と2013年2月の長生炭鉱追悼碑の完成までの経過を示した。



約100名の参加者

第8回強制動員真相究明全国研究集会

強制連行問題をどう終わらせるか

共催：強制動員真相究明ネットワーク、長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会



報告をする小畑事務局長

沖縄戦での遺骨発掘をすすめる具志堅隆松さんは、国や県の遺骨発掘への消極的な姿勢を批判し、発掘体験から日本軍の兵士には認識票が配布されていないものがあり、将校には氏名が刻まれ、兵士は番号のみであったことなどを示した。また、米軍の屋嘉收容所は日本軍捕虜の收容所であり、その死亡者名簿には朝鮮人

鄭祐宗さん



権を握り、朝鮮人を監視し、その権利を制限し続けたのである。

九州の報告は広瀬貞三さんがおこなった。広瀬さんは、1943年末までの統計では九州での強制連行者数は全体の46%ほどとなり、炭鉱への連行が多かったとし、福岡や長崎での連行調査を中心に2000年代の九州各県での調査状況についてまとめた。そして、新たな史料・証言の発掘や県別の取り組みを横断・結合する視点や調査が必要であるとした。

広島の報告は内海隆男さんがおこなった。内海さん

名があるが、すべてが平和の礎に刻まれていないことを指摘した。

続いて、山口、九州、広島での強制連行調査の報告がなされた。

山口については鄭祐宗さんが、山口県の戦後行政が朝鮮支配に関わった官僚を重用し、山口県が安全保障と警備の防波堤とされてきた経過を紹介した。

資料を見ると、山口県の総務部長となり、後に山口県知事となった橋本正之は忠南での警務課長や総督府の鉱工局動員課に勤め、帰国している。戦時に朝鮮人を監視し、動員をすすめたものが、戦後、山口県で実



具志堅隆松さん

続いて集会では強制連行の否定の動きについての批判と問題提起がなされ、議論となった

外村大さんは「強制連行はなかった論」を批判し、全般的には暴力的な動員であったが目に見える強制だけを問題にしてはならないこと、行政命令なしでおこなわれた労働動員が国家による無責任につながったこと、形式的には志願であってもひどい扱いを受けたことなどを指摘した。

渡辺美奈さんは「慰安婦」問題での政府による強制性否定の動きを批判した。渡辺さんは、河野談話で、本人の意思に反して集められたことを「強制性」と定義づけるのであるならば、強制性が存在したケースも数多くあったとされていること、国連人権規約委員会の所見では、意思に反して募集・移送・管理がなされたことが問題とされていることなどをあげ、現在の政府の詭弁を批判した。

奈良の高野真幸さんは、天理市による柳本飛行場跡地の説明板の撤去問題について話した。高野さんは天理市がさまざまな歴史認識を理由に強制性の判断を保留しているとし、事実を棚上げにすることは人権・平和に反するものと批判した。

3人の問題提起の後、強制性をめぐって議論が交わされた。

集会後には交流会がもたれ、全国からのあいさつがなされ、最後は、肩を組んで、共に歌った。

●長生炭鉱追悼碑とフィールドワーク

翌日は、刻む会の内岡さんの案内で、宇部の長生炭鉱の追悼碑と炭鉱跡のフィールドワークがおこなわれた。

フィールドワークでは初めに、刻む会の追悼碑を見学し、遺族の証言を聞いた。その後、第2坑跡（旧新



左から 高野真幸さん、渡辺美奈さん、外村大さん

浦炭鉱)、新浦炭鉱事故碑、長生炭鉱の倉庫跡、朝鮮人収容寮跡、長生駅跡、捲揚機台座跡、長生炭鉱殉難者碑、山神跡、本坑跡を歩いた。最後に炭鉱の排気・排水口である2つのピーヤを遠望し、追悼の献花をおこなった。

長生炭鉱は朝鮮人の強制連行がおこなわれる前から朝鮮人が多い炭鉱であり、「朝鮮炭鉱」ともよばれていた。炭鉱の3区、4区、5区の採掘のほとんどが朝鮮人だったが、連行によってその比率はさらに高くなった。

水没事故は1942年2月3日に起きた。現時点の調査では、事故の死亡者は183人であり、朝鮮人は136人に及んだ。この朝鮮人死者のうち「募集」によって連行された朝鮮人の死者数は80人を超えた。その問題点が明らかにされたのは1970年代である。

跡地に1982年に建てられた「殉難者之碑」には、朝鮮人連行の史実や犠牲者名は刻まれなかった。殉難碑を作った旧炭鉱関係者は、朝鮮人は当時、日本人であり、炭鉱の仲間として仲良くし、差別はなかった、謝罪することはない、炭鉱殉難者の碑は地区の発展に寄与したことを顕彰するためのもの、全員を慰霊するための碑であり、殉難者の氏名は無くてもよいとする立場をとった。

それに対し、市民団体は植民地支配と強制連行を謝罪し、名前を記すべきと活動を始めた。事故後50年回忌の法要をめぐっての論争を経て、1991年3月、「長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会」が結成された。「刻む会」は現地での全犠牲者の名を刻む追悼碑の建設、ピーヤの保存、証言・資料の収集などを目標に活動した。翌年、韓国では長生炭鉱事故被害者の遺族会が結成され、長生炭鉱跡地で追悼集会が開催される



ようになった。それから、20年余を経た2013年に、追悼碑が完成したのだった。

追悼碑には刻む会による追悼文がある。そこには、再び他民族を踏みつけにするような暴虐な権力の出現を許さないために、力の限り尽くすことを誓い、ここに犠牲者の名を刻みますと記されている。参加者はこの追悼碑の前で追悼の時を持った。

追悼碑近くの公民館で、犠牲者の位牌の前に、事故で亡くなった全聖道さんの子の全錫虎さんが、事故の記憶、その後の生活、遺骨収集への思いを話した。全聖道さんは陝川出身であり、全錫虎さんは1932年1月に生まれた。事故のときは小学校5年だった。いまは大邱に住んでいる。全錫虎さんは1993年から2015年の追悼式まで一度も欠かさず参加している。



全錫虎さんはつぎのように話した。

事故の日には、運動場からクジラが塩を吹くように海水が吹きあがるのを見た。事故後、補償もなく、住んでいた社宅を追い出された。友達の馬小屋で暮らし、母は酒の密造もして5人の子を育てた。解放後、帰国したが、言葉は話せず、生活苦のなかで兄弟は奉公に出された。新聞記事で遺族会の活動を知って参加した。父の遺骨を見つけだせないまま、母は96歳で亡くなった。遺骨がないということは親不孝者である。その罪悪感をもって生きてきた。ピーヤの前に立つと父の声が聞こえるようだ。しかし呼びかけても答えはない。本心で生きれば、福がくると信じて生きてきた。

遺族の証言を聞いたのち、跡地を歩いた。長生炭鉱の跡地の多くを当時の経営者の子孫がいまも所有しているという。そのような主張によって跡地の保存がで

きないことに問題がある。坑口は埋められてしまい、どこがわからない。

宇部の海岸沿いの炭鉱は海底を掘り進むものが多く、大きな事故も数多く起きている。長生炭鉱は事故後に新浦炭鉱を第2坑として開発したが、新浦炭鉱では1921年12月30日に水没事故を起こした。この事故では34人が亡くなっているが、碑を見ると、碑文の裏側の下部の最後に朴天基という朝鮮人の名が刻まれている。このことから朝鮮人が労働していたことがわかる。

この事故の6年前の1915年4月には東見初炭鉱で海水事故が起き、235人が亡くなるという事故が起きた。宇部の炭鉱は多くの労働者の命を吸い込んで開発がすすめられたのである。戦時下、宇部には2万人を超える朝鮮人が集まり、人口の1割が朝鮮人となった。

朝鮮人収容寮跡は、当時は板塀で囲まれ、4棟があったが、今では草地となっている。逃亡して捕えられた人々は見せしめにされ、殴打された。事故後、長生駅は撤去された。捲揚機台座はすでに破壊され、コンクリート片と折れ曲がった鉄筋が草むらに残っている。

1982年の長生炭鉱殉難者碑には「永遠に眠れ、安らかに眠れ、炭鉱の男たちよ」と刻まれ、そこに死者の名前はない。この碑は、植民地支配や連行を反省し、死者の名を刻んで追悼するものではない。

荒れ放題になっている跡地



山神の跡には階段だけが残っている。本坑跡を歩いた後、海岸で追悼の献花をおこなった。遺族の全さんはピーヤの見える海に向かって、「アボシー」「アボシー」と呼びかけ、耳を澄ませた。その後、参加者がつぎつぎに海に向かって花を投げた。花は心をいやすように、波に揺れ、うちよせ、流れた。波にただよう花をみつめながら、参加者は追想の時を持った。

植民地支配と侵略戦争、そして強制連行・強制労働の事実を認めようとしない動きはいま、強まっている。侵略戦争、石炭増産、そのための強制労働によって、多くの人々が亡くなった。なかにはいまも海底に埋没したままの人々もいる。歴史の記述はそのような人々の思いを伝えるものでなければならぬ。

宇部の石炭記念館の前には荻原守衛作の坑夫像が置かれている。よい作品は見るものに表現への思いを持たせるものであるが、この坑夫像もそのひとつである。この像が、権力の暴虐を阻むまなざしをわかちあうものであってほしいと思った。

※第8回強制動員員

相究明全国研究集

会「強制連行問題を

どう終わらせるか」

〈報告集〉(201

5年5月10日 強

制動員員相究明ネ

ットワーク編集発

行)より文章は転載

※写真は「刻む会」撮

影のものを使用。

※「刻む会だより」掲

載の為、2015年

6月13日、ご本人

により一部修正し

たものを掲載した。



講演録(要約)

「山口県の朝鮮学校の歴史」

元宇部朝鮮学校初中級学校 校長

許鳳兆(ホ・ボンジョ)さん

☆今回の学習会について

山口県と下関市は2015年度、朝鮮学校への補助金計上を見送り、宇部市は補助金そのものを廃止しました。昨年8月に国連人種差別撤廃委員会からの勧告が出されているにもかかわらず一方的な決定をしたのです。このような差別行政に対し、私たちはオモニ会と一緒に問題解決に向けて闘っていきます。

去る四月六日に許鳳兆さんを講師として「山口県の朝鮮学校の歴史」について学習会を持ちました。以下、講演内容(要約)を報告します。

許鳳兆(ホ・ボンジョ)さん

① 祖国へ帰るために朝鮮語を学ぶ

1945年8月、私が六歳の時に祖国は解放されました。同胞たちは民家を借り、ウリマル(朝鮮語)を習い、字を覚えしました。半年以上にわたり、国語(朝鮮語)講習所が流川、万来町、見初、居能、岬、八王子等に開講されました。その学び舎で、同胞子弟は祖国へ帰るために、必死に朝鮮語を学びました。しかしその

後、様々な事情で日本に留まる朝鮮人も少なくありませんでした。翌年四月から国語講習所を統合した朝鮮学校が万来町で始まりしました。

② 山口県庁で一万人の抗議集会

1950年6月、1953年7月(休戦協定)にかけて朝鮮戦争が起こりました。これに先立ち、GHQ(連合軍総司令部)は朝鮮学校閉鎖令を出し、全国にある五百以上の朝鮮学校に弾圧を加えてきました。これに対して、1948年3月31日に山口県庁前で朝鮮人一万人が結集し、閉鎖反対デモを行いました。その後、阪神教育闘争へと続きました。

③ 日本の学校に転校せざるを得なかった

1948年10月に学校は閉鎖され、小4だった私は、3学期から藤山小学校に転校せざるを得ませんでした。そこで手にした日本語の教科書は、全く読めず、朝鮮語のルビをつけて勉強しました。朝鮮人差別の最たる出来事は中3の時のことでした。成績上位だった友だちや私は、県立高校の入学試験で不合格とされました。担任は学力が足らなかったわけではないからと言ってくれましたが、これには前年(1952年)に起こった宇部興産窒素工場争議の一件が絡んでいたのではないかと思います。それにしてもショックでした。

④ 朝鮮学校を守る闘い

1955年に朝鮮総連が結成されました。この時期、朝鮮学校が京都、東京、大阪、名古屋、

神戸、横浜等で再建され、同じ頃に山口県内の岩国、徳山、下関でも朝鮮学校が再スタートしました。宇部では1959年に朝鮮初級学校が創設されました。当時、朝鮮学校の経営資金は脆弱で、とても苦しかったのですが、保護者や同胞の民族教育を守るといふ熱い思いに支えられ、特に、祖国共和国からの資金援助に大変助けられました。流川のブタ小屋を改造した平屋校舎は、1959年8月に夜間学校から昼間の学校になりました。それにしても大雨の時、雨水が教室に流れ込んできたのには閉口しました。翌々年（1961年）の4月、藤山の東平原に宇部朝鮮初中級学校が再築されました。

⑤山口県の朝鮮学校への補助金問題

1993年から山口県の朝鮮学校への補助金交付がはじまりましたが、その額は県内各朝鮮学校にわずか15万円でした。1995年に児童・生徒一人当たり年間3万円、さらにオモニ会や同胞の粘り強い増額を求める運動の結果、2008年に一人当たり5万円となりました。しかし、この金額は私立学校に比べると4分の1足らずで、雀の涙のようなものです。さらに言えば、地方自治体の補助金拠出は1980年代に全国的に広がりましたが、山口県の補助金拠出時期は1993年で、地方自治体の中でも最後の方でした。それにもかかわらず、県は一昨年の2月、一方的に補助金の打ち切りを通告してきたのです。この決定は他の自治体の様子を窺がって、逸早く決められたのです。こうし

た有り様は、山口県の補助金に対する主体性の無さや教育差別が如実に示されています。

⑥朝鮮学校の教育の質の高さ

1991年、高校サッカー連盟を皮切りに、各連盟は朝鮮学校のスポーツ大会への参加を認めました。朝鮮学校のサッカー部員やラグビー部員はその実力が全国大会レベルにあることを広く知らせることとなりました。特に、大阪朝鮮学校のラグビー部は全国大会の常連校となり、今年の花園の全国大会もベスト8まで勝ち進みました。

また、1999年の朝鮮学校の大学院入学資格認定後、朝鮮学校への大学入学資格の弾力化がみられはじめました。朝鮮高校の半数以上の生徒たちは、朝鮮大学校（1956年創立）をはじめ、日本の国公立や私立学校に進学し、多数の学生が優れたスポーツ能力や学力を発揮しています。1980年代以降、朝鮮学校は、日本社会に有用な人材を送り出すことを教育の目標に掲げて質の高い教育を行なっているのです。

⑦朝鮮学校は同胞の宝である

国家権力は最も弱いところを差別し弾圧してきます。朝鮮学校の「高校無償化排除」や山口県、宇部市の補助金カットは、その象徴です。私たち朝鮮人にとって朝鮮学校は何ものにも代えがたい民族教育そのものであり宝です。私自身、日本の高校入試を落とされた結果、東京の朝鮮高級学校に進学することになって本当に良かったと思っています。すばらしい民族教育や

かけがえのない出会いによって自分が高められたからです。朝鮮学校の補助金問題を、日本の皆さんも自分の事として、一緒に闘ってください。することを願ってやみません。

☆学習会を終えるにあたって

朝鮮人参政権の問題や講師（許鳳兆さん）が高校入試で不合格になった背景等、いくつかの質問がありました。今回企画した「山口県の朝鮮学校の歴史」の学習会はとても充実したものになりました。

今後、山口県、宇部市、下関市の朝鮮学校への差別行政を糾すべく、朝鮮学校の関係者の皆さんと共に闘って行きたいと思えます。講師を快諾くださった許鳳兆さんに、心から感謝いたします。

（文責「刻む会」共同代表 内岡貞雄）



【一般会計】

	科 目	年度予算	期間実績	実績累計	達成率	備考
歳入						
1	会費	350,000	193,000	193,000	55.1%	※ 1
2	寄付金	1,200,000	104,000	104,000	8.7%	※ 2
3	物販	120,000	0	0	0.0%	
	証言・資料集	70,000	0	0	0.0%	
	その他	50,000	0	0	0.0%	
4	雑収入	5,000	2,000	2,000	40.0%	春 FW 飲料代他
5	前期繰越金	460,199	460,199	460,199	100.0%	
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合 計	2,135,199	759,199	759,199	35.6%	
歳出						
1	事務費	50,000	27,202	27,202	54.4%	総会送料他
2	広報費	250,000	58,734	58,734	23.5%	たより送料他
3	会議費	20,000	0	0	0.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	1,083	1,083		電気代
5	活動費	790,000	14,508	14,508	1.8%	
	学習会等	90,000	14,508	14,508	16.1%	公開学習会・春 FW
	追悼集会	500,000	0	0	0.0%	
	その他活動	200,000	0	0	0.0%	
6	他団体会費等	40,000	15,000	15,000	37.5%	無窮花友好親善の会・真相究明ネットワーク
7	雑支出	20,000	2,740	2,740	13.7%	送金手数料
8	予備費	50,000				
	小 計	1,230,000	119,267	119,267		
9	特別会計へ繰出	905,199	0	0		
10	繰越金	0	639,932	639,932		
	合 計	2,135,199	759,199	759,199	35.6%	

※ 1 新規正会員登録 1 名（個人 0 名・団体 1 名）／累計 72 名（個人 65 名・団体 7 名。1 名賛助会員に変更）
 新規賛助会員登録 9 名（個人 11 名・団体 0 名）／累計 165 名（個人 160 名・団体 5 名）

※ 2 寄付者（敬称略）

磯村 哲雄	井上 洋子	猪股 誠司	内岡 貞雄	吳 世 憲	岡田美代子
姜 徳 洪	斎藤 正樹	田中 豊	鳥家 治彦	原田 正暁	梁川 福心
日野 良子	福川 寿子	藤井 和義	松元 一也	宮田 幸好	宮本 輝男
森次美代子	山口キヨ子	大和裕美子	鍵光 洋子		

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	2,013,756				
繰入金	0		繰越金	2,013,756	
合 計	2,013,756		合 計	2,013,756	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	2,000,000				
繰入金	0		繰越金	2,000,000	
合 計	2,000,000		合 計	2,000,000	

以上感謝をもってご報告いたします。
 引き続きのご支援をお願い申し上げます。

2015年3月1日～6月15日
紙面にて別途報告があるものを除く

事務局長 小畑太作

☆委員会開催

2014年度

1. 第10回運営委員会 3月3日(火) 欠席2名
 2. 第11回運営委員会 4月6日(火) 欠席3名
 3. 第12回運営委員会 5月8日(木) 欠席3名
- 2015年度

4. 第1回運営委員会 6月12日(金) 欠席5名

☆学習会・フィールドワーク受け入れ検討

1. 曹洞宗中国管区内宗務所教化センター役員人権啓発研修会 7月6日(月)
2. 広島県高教組 7月18日(土)
3. 在日コリアンマイノリティ人権研究センター(大阪) 10月3(土)
3. 福岡県京築教育事務所 10月27日(火)

☆遺骨等収集

1. 政府交渉に当たって、論点の整理や証拠資料の収集が課題のまま残っています。敗戦70年の機会、できるだけ早急に交渉に入れるよう進めたいと思います。

2. 坑口探索について、前回追悼集会の講師・塩川正隆さんより、探索業者を紹介頂きました。現在、この業者と坑口探索作業実施の計画を検討しています。坑口が明らかになれば、遺骨等へのアクセスの可能性が大きくなるものと考えています。
3. 今後のDNA鑑定実施に向けて、犠牲者と遺族のデータベースを作成することにしました。現時点で、採取した検体についての情報もここで一括管理するようにし、今後に確かに繋げていきます。

☆宇部市長との協議

第26回長生炭鉱水没事故問題解決協議会を5月7日木開催。市役所の担当者が一部交代しました。(地域福祉課課長、学びの森くすのき館長)

1. 国政府の遺骨返還事業の中での、厚労省と宇部市役所とのやり取りの記録について開示の請求をしていたが、見つからないとの回答。県庁を通じているので、県庁及び厚労省にも照会して再調査してもらうよう要請しました。

2. ピーヤの説明板が、文言に歴史認識問題があり設置できないでいることについては、市役所側は、あくまで修正する意思がないことを主張。しかし、修正できない理由については合理的な説明が為されていないことを指摘すると、新たな担当になったこともあり答えに窮した。次回までに再度検討するよう要請しました。

3. 土地の提供をはじめ追悼碑への協力については、旧担当者からの引継がないとのこと。呆れるところですが、引継を含めて次回までに検討を要請しました。

4. ピーヤの保存については、文化財審議会に提案してもらったよう要請してきたが、提案していないとのこと。理由の説明を求めたが、説明が得られず、次回までに説明を準備するよう要請しました。

5. 石炭記念館での後付けの展示の有り様、また懸案であった「学びの森くすのき」での特別展示について、改善と具体化を要望しました。

6. 追悼集会への協力については、せめて名義後援となってくれるよう改めて要請。また公務として出席しているがらの後援拒否は矛盾していることを追及。次回へ継続することとしました。

殆ど進展が見られない市行政との交渉ですが、問題解決のために今後も粘り強く交渉を継続します。第27回は、7月16日(木)10時から宇部市福祉会館(JR宇部線琴芝駅前)2Fボランティアセミナールームにて開催予定です。皆様の参加をお願いいたします。

☆「追悼ひろば」の拡充

当面は「追悼ひろば」説明文の設置が課題となっています。文案はできているのですが、委員会中に検

討の時間がなかなか取れず、継続審議となっています。また、長生炭鉱に関する絵画の設置についても検討課題としています。

☆山口朝鮮初中級学校への助成金停止問題

毎月行われる県庁前の抗議行動への参加案内に加え、6月10日(水)の抗議行動後の集会にて、問題点と今後の運動の展開について発表・提言しました。その後、当会としても具体的な提案を検討・準備しました。

☆学習会等の開催

「夏の学習会」について検討。8月1日(土)に宇部市立図書館にて開催します。

☆『証言・資料集』第三集

韓国「対日抗争期強制動員被害調査及国外強制動員犠牲者等支援委員会」による報告書の日本語版発行が滞っているとの情報を得、検討。当会としてこれを第三集として発行することにし、当該委員会ならびに日本語翻訳委員会に打診の上実施していくことにしました。

☆その他

1. 『刻む会たより』No. 56、57の企画と発行。
2. 韓国「対日抗争期強制動員被害調査及国外強制動員犠牲者等支援委員会」からの海外諮問委員依頼に対して受諾を決定。
3. 第4回BI-Y-P韓国富川の青少年とのいきいき交流計画に、ソウル在住の会員大和裕美子さんに参加してもらうこととした。
4. 『真相究明ネットワークニュース』第7号、『悪魔の飽食をうたう東京合唱団20年史』への寄稿依頼に対して、いずれも内岡貞雄共同代表に寄稿してもらうこととした。

